



調布市産線樹林地ガイドマップ
もりのちず 人間町・若葉町編
平成28年3月発行
発行：調布市環境部環境政策課 〒182-8511 調布市小島町2-35-1 TEL.042-481-7086
企画編集：ちよら環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org>
デザインイラスト：山川地誌研究所(小島章、横山美、mariko/fukural) 写真提供：調布市産線樹林地の保全管理計画(調布市・人間町) 平成27年4月発行



調布市・産線樹林地 ガイドマップ もりのちず

人間町・若葉町編



【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

**歩いてみよう！
産線の森**

調布市東部の国分寺産線路上には
緑豊かな森が回廊のようにつながっています。
そこは、木々や花々・鳥や虫など様々な生きものと
触れあうことができる貴重な場です。また、すぐれた
景観や良好な環境を地域にもたらしめています。

市内の5か所の森(緑地)では、市民のボランティア団体が
調布市と協働で保全活動を行っています。

仙川駅とつづじヶ丘駅から森へのウォーキングルートには、
武者小路実篤記念館・公園、釋尊神社をはじめ、
見どころがいっぱい。屋敷林と畑の中の道、
静かな寺町、個性のお店も多い仙川商店街が楽しめます。

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

【思い出のアルバム】の歌碑がある。
→常楽院

→全子稲荷神社

→つづじヶ丘駅

→つづじヶ丘駅

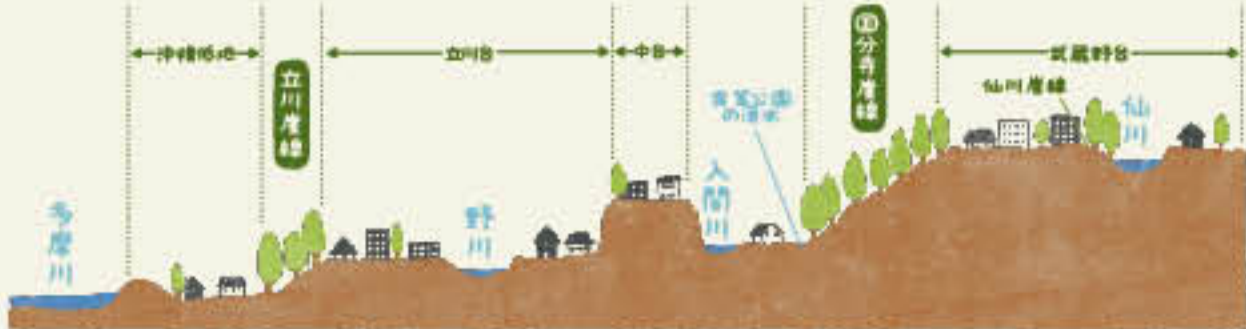
→つづじヶ丘駅

国分寺崖線とは？

多摩川の流れが武蔵野台地を削ってきた崖線が国分寺崖線です。立川市から国分寺市、小金井市、調布市、世田谷区を経て大田区まで20数キロメートル続いています。崖の上を武蔵野台地、崖下を立川台地といい、のちに立川台地が多摩川の流れで削られて立川崖線(調布市域では布田崖線とも呼ぶ)ができました。武蔵野台地はススキの原が広がり農耕には不向きでしたが、崖線下には湧水があり、その水を集める野川・入間川が崖線に寄り添うように流れて、水田稲作を含む農耕が古くから行われました。国分寺崖線には縄文時代以来の遺跡や、古い寺社が多く見られます。深大寺もそのひとつです。崖線の斜面には樹林が維持され、村人は燃料や肥料をそこから得てきました。江戸時代には崖上(台地上)の畑で作られる野菜が江戸で販売されるようになりま



↑キンラン(左)、ギンラン(右)
→国分寺崖線の位置。世田谷区では現在の多摩川の流路に近いが、府中市では5キロくらい離れます。緑色は都が景観保護のために指定した範囲であり、樹林の広がりではありません。
▽崖線の断面。調布市若葉町付近の武蔵野台地から多摩川までの断面。武蔵野台地と立川台地の間に中台という丘があり、入間川が谷を刻んでいます。武蔵野台地上には仙川が流れます。



す。そうした里山(さとやま)の暮らしが長く続き、昭和20年代までは水辺でホタルも見られました。都市化が進んだ現在も、崖線の斜面林がところどころに残っており、絶滅危惧種(東京都)のキンラン・ギンランをはじめ、多様な生きものが暮らす「緑の回廊」となっています。また崖線の緑と川の流流は、景観的にもたいへん貴重です。しかし、農業と関係のなくなった崖線樹林は定期的な伐採や手入れがされなくなって、荒れてしまうことが少なくありません。調布市内では国分寺崖線の上の5か所、布田崖線の1か所の樹林で、市民ボランティア団体と市が協働で保全活動を行っています。この地図では、市内東部の国分寺崖線上で活動する3団体を紹介しています。

SINCE 2000 入間・樹林の会

入間町1丁目樹林地は、農家の屋敷林などと連なって崖線林を形成しています。かつては大木になったマテバシイがうっそうと茂り昼間でもうす暗く、植樹された杉の湿った林床にはシャガが繁茂していました。サザンカ・ツバキの森にはクスギの大木が、雑木林広場にはクスギ、コナラ、イヌシデ、エノキなどの落葉高木が林立して、武蔵野の面影を残しています。会は市有樹林地の保全活動団体第1号として発足しました。活動は「マテバシイ広場」「シャガの広場」「ツバキの森」「雑木林広場」のゾーンに分けた下草刈りや伐採の保全活動です。他に補生を継続的に調べる方形特調査、子ども野鳥観察会など、環境教育の場として活用しています。



入間町1丁目樹林地
年4回・季節ごとに、1メートル四方の方形特内の植生調査をおこなっています。

活動日
毎月第3日曜日
9:30~12:30



子ども野鳥観察会は毎年2月に行っています。



冬の雑木林広場。落葉した樹々から柔らかい陽光がさしこむ。



ウラシマソウ 日陰を好み花の中から釣糸状のひもがでて垂れ下がる。
エゴキ 春に5分の白い花を下向きに多数つけ、夏に実をつけ秋に熟す。
キツネノカミソリ 早春に花は夏に結れ、初秋に花茎がひびく。
クサギ 葉をもむと臭い。種名の由来、8月頃花が咲き、実は染料となる。
トネアザミ 9~11月に紅紫色の花が咲き、樹林地内でよくみられる。

SINCE 2005 わかばりょくち かい 若葉緑地の会

若葉町3丁目第3緑地は国分寺崖線を通る新旧の坂道、大坂(おおさか)と松原通り(都道114号線)に挟まれています。昔、江戸に野菜を運ぶ道筋だった大坂は、シラカシなどの大木に包まれた少し暗く静かな道です。松原通りは交通量の多い道ですが、森に入れば気になりません。スギなど常緑樹の間伐によって、以前より明るい森になり、林床に生える植物が多様になってきました。崖線上部の青空広場は、陰当たりの良い草原にミズキやケヤキが茂り、夏の流しそうめん、冬のクリスマスリース作りの会場になります。桜広場は4月、入重桜が見事です。隣接する住宅地と森が良い関係を保ち、安全で心地よい憩いの場になるように、保全活動を進めています。



若葉町3丁目第3緑地
近くの保育園から散歩に来る子ども達はここを「トトロの森」と呼んでいるそうです。

活動日
毎月第2日曜日
9:30~12:00
(荒天の場合は翌週の木曜日)



12月のクリスマスリース作り。ミズキの黄葉もきれい。



雪の日。スギとシラカシの高木が多い第二広場から第一広場を望む。



タチツボ 3月初旬~4月中旬頃、青空広場と桜広場の間で。
キリンソウ スミレと同じ頃、隣り合って咲き、春の森を彩ります。
ホタルブクロ 6月、夏の気配が濃くなった青空広場で出会えます。
ホトトギス 10月、魅力的な花がやや日陰の斜面に見られます。
ヤブコウジ 別名は十両。晩秋から冬の楽しみは、美しい木の葉。

SINCE 2010 わかば もり かい 若葉の森3・1会

若葉町3丁目第1緑地は若葉小学校の通学路「六別(ろくべつ)坂」に面し、高さ20メートル以上のシラカシやイヌシデの巨樹の森に子どもたちの歓声が響きます。夏の夜はカブトムシ採集に親子が集まります。南の林縁にはヤマザクラの古木も見ることができます。第2緑地の崖上部分は、落葉広葉樹のコナラやクスギが多く、武蔵野の典型的な雑木林の面影を今に伝えています。第2緑地の急斜面に広がる竹林は手入れが必要で、櫛の材料などへの利用を工夫していきます。暗い森にせず、斜面の土の流失を抑えること、貴重植物の保護などが保全活動の重点です。5月、新緑に包まれて「森で歌う会」は地域のイベントとして定着してきました。



若葉町3丁目第1・第2緑地
安全第一で楽しく、わきまあい。助け合って活動しています。生きものと共生する環境を気長に守っていきましょう。

活動日
毎月第1日曜日
9:30~12:00
(7月と8月はお休み)



森で歌う会。森の空気をいっぱい吸って歌います。



夕陽が射し込む第1緑地。森の中を好んで歩く、下校中の小学生も。



シュンラン 4月上旬、落葉の間に可憐な花が、代表的な東洋ラン。
ヤマザクラ 第1緑地の一番低い所に、一本だけ生えている古木。
ヤマユリ 7月、アズマネザサの茂る中に大ぶりの花が咲きます。
アミガサタケ 春の樹林で見られる。若葉の森には多彩なキノコも。
夕焼け富士 秋冬には第1緑地の崖上から木々の間に富士山が。

樹林地の虫

崖線樹林地で見られる昆虫のうち、カブトムシやクワガタムシはクスギなどの樹液に集まります。植物の葉を食べる昆虫には、チョウや蛾の幼虫がありますが、ヤブマオにはフクラスズメ、サルトリイバラにはルリタテハ、エノキにはゴマダラチョウと、いったように種類によって餌にする植物(食草)が決まっています。また、葉脈に沿って隠れるナナフシや、木の枝そっくりのシャクトリムシ等は、気を付けないと見つかりません。林内の下草では、バッタやキリギリスの仲間が見られます。林縁に多いヤブガラシの花には、吸蜜のため、チョウやアブのほか、スズメバチも来ます。



樹林地の鳥

樹林地の環境は、鳥たちにとって身の安全を守る絶対の隠れ家です。そこにある木の葉や花の蜜、昆虫たちは餌となるまさに都合の良いオアシスです。季節を問わず多くの野鳥が生息していますが、鳴き声は聞けても姿を見ることはなかなか難しいです。そっと樹林地の中をのぞいてみましょう。野鳥を見つける簡単な方法
1 静かに立ち、周りの環境を観察する。
2 野鳥が餌(植物の実、蜜のとれる花、小さな虫)のある場所を探す。
3 しばらくすると、やがて声が聞こえ、姿が見え始める。
冬を越すために来る鳥 ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、ルリビタキ、などなど



もりくらべ

入間町1丁目樹林地と若葉町3丁目第3緑地は、常緑樹のシラカシとスギが約半分を占めますが、樹種が多いのは入間。若葉町3丁目第1緑地は6割がシラカシで少し暗く、同第2緑地はコナラをはじめ落葉樹が多く明るい樹林です。

